

できることから始めよう!

「新・福まちスタイル」

北海道が提唱する「新北海道スタイル」に基づき、札幌市社会福祉協議会は、福まち活動の再開に向けて気を付けるポイントや今できる活動例などをまとめた「新・福まちスタイル」を作成しました。これまで福まちが育ててきた地域のつながりを絶やさないために、少しずつですが、前に進みます。

「新・福まちスタイル」スローガン

ふれあいの気持ちを絶やさず **く**ふうした活動で **ま**を大切に **ち**ゃんと予防して つなごう

3密を回避する工夫した取り組み例

新・福まちスタイル『できることから 少しずつ始めましょう』

①電話でつながろう

電話で話すだけで、閉じこもりがちな生活の中で「誰かが気にかけてくれている」「つながっている」という安心感につながります。

これまでの活動を通じて気になっている方が困り事を抱えているような場合は、専門機関につなぎましょう。



②手紙・届け物でつながろう

手紙やメッセージカード、チラシなどの配布を通じてつながりましょう。接触を避けて郵送したり、活動者の運動も兼ねて散歩がてらポストインするなど方法は様々です。

また、ポストインの際には、インターホン越しに安否確認することが効果的です。



③ICT (情報通信技術) でつながろう

メールやLINE (無料メッセージアプリ) などを利用することで、コミュニケーションの幅が広がります。活動者間のやりとりなど、今だからこそ新たな可能性に挑戦してみたいかがでしよう。



④できることをシェアしよう

自宅で楽しく過ごすために工夫していることを紹介したり、手芸が得意な人は、マスクを手作りして配布してみたり、今できること、やっていることをみんなと共有して、楽しみながらつながりましょう。



見守り訪問やイベント開催時に判断するためのチェック表

見守り訪問	訪問前後	<ul style="list-style-type: none"> ○体調確認 訪問前には必ず検温し、発熱や体調不良時には、訪問を控えましょう。 ○マスクを正しく装着 鼻や口を正しく覆えているか確認しましょう。 ○手洗い・うがい 帰宅後は、すぐに石鹸等で手を洗い、うがいをしましょう。 	訪問時	<ul style="list-style-type: none"> ○アルコールで手指を消毒する 訪問先の門やブザーを触る前や、訪問先を離れたらすぐにでも消毒しましょう。 ○インターホンや屋外で話す 接触は極力控えて、インターホン越しの会話や、屋外でお互いに手を伸ばしても当たらない距離 (2m程度) に離れて、短時間 (15分以内) で会話を終えましょう。
	施設・会場	<ul style="list-style-type: none"> □会場の収容定員の半数以下で人数設定 □人と人の距離の確保 (1~2m程度) □できるだけ対面での会話を避けた座席配置 □定期的な換気の実施 (30分に1回程度)、可能であれば2方向の窓を同時に開ける □ドアノブや手すりなど、人が手を触れる場所を可能な範囲で消毒 □手洗い場の確保と会場入り口付近にはアルコール消毒薬等を設置 	参加者への事前依頼	<ul style="list-style-type: none"> □発熱、咳、倦怠感、息苦しさ等の症状がみられるときは参加を控えるよう依頼 □マスクの着用、手洗いや咳エチケットの徹底を依頼 □重症化する可能性の高い基礎疾患のある方などは、参加を控えるよう注意喚起 □人と人の距離を意識するよう意識づけ □参加後に感染が発生、またその可能性がある場合には連絡いただくよう依頼
イベント開催	運営	<ul style="list-style-type: none"> □極力時間短縮できるよう内容を検討する □人と人の接触を避けたり、大声や歌唱等飛沫が飛ぶ可能性が高い内容は控える □飲食を伴う場合は、向かい合わずに距離をとって座り、個別配膳・個別包装、箸等を使いまわさないなど、対策を徹底する □クラスターに備えて、参加者を特定するため、氏名・連絡先を把握する □事業開始時に改めて参加者へ注意喚起 	スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> □発熱、咳、倦怠感、息苦しさ等の症状があるときは従事しないように徹底 (当日朝の体温チェックを徹底) □マスクの着用、手洗いや咳エチケットの徹底 □従事後の手洗い、うがいの徹底 □従事後に感染が発生、またその可能性がある場合には責任者へ連絡する